

## 名古屋市要介護度等改善事例公表事業

## 改善・向上したこと

「看取り介護」について取り組むことで、職員とご利用者がこれまで以上にコミュニケーションを取るようになり、ご利用者のことをより知ることが出来るようになりました。

事業所	サービス種別	介護老人福祉施設
	事業所名	特別養護老人ホームなごやかハウス名楽
	所在地	中村区名楽町4丁目7番地の18
利用者	65歳未満・65～70歳・70歳代・80歳代・90歳～	

## 取り組み

課題（取り組み前の時点）	看取り介護をさせていただく度に、その後の振り返りで毎回同じような反省が繰り返されていた。ご利用者一人一人に対する個別性のある看取り介護が出来ていなかった。		
本人の意向	（ご利用者）もっと自分のことを知ってほしい。 （職員）もっとご利用者のことを知り、看取りに限らず普段のケアに活かしていきたい。		
長期目標	（ご利用者・ご家族）最期を名楽で過ごせてよかったと感じる。 （職員）名楽で看取ることが出来て良かったと感じることが出来る。	取組期間	ご利用者の在籍中
短期目標	（職員）ご利用者の趣味や好きなもの等を、ご本人やご家族から情報収集する。	取組期間	3ヶ月
関連する加算の算定状況	看取り介護加算		

## 具体的な取り組み事例（期間、頻度、内容、主に担当した職種など）

- ・「私らしくノート」という名のエンディングノートを作成。子どもの頃のこと、青春時代のこと、故郷の思い出、お仕事のこと、子育てのこと、一番大切なもの等を、ご本人や面会に見えたご家族等にお聞きした。職種は定めず、介護職員や生活相談員等が少しずつお聞きし、情報を集めていった。
- ・上記をもとに、部屋の中をご本人のお好きなものやご家族との写真等で飾り付け、普段からより心地よい空間となるようにした。
- ・看取り介護が始まった際に速やかに準備ができるよう、必要物品等のリストを用意した。
- ・最期まで食事の時間を楽しんでいただけるよう、看取り用の食器やランチョンマットを用意した。
- ・全職員向けに看取り介護をテーマに研修を実施した。

## 結果（達成したこと、達成時期）

・ご利用者・ご家族にお話を伺い、「私らしくノート」を作成する中で、それまで知らなかったご利用者の新たな一面を知ることが出来た。社交的で誰とでも和やかに談笑される方が実は静かに一人で過ごす時間がお好きなことも分かった。また、部屋の中を好きなもので飾りたいとの要望もお聞きした為、下記の写真のように模様替えをご利用者と一緒に行った。



・看取り時に使用する食器を探している中で、華やかな色の食器を購入するだけでなく、厨房職員が紙コップを使って仕掛け皿を作成した。



・職員同士で話し合いをしていく中で、看取り介護とは決して特別なことをすることでなく、普段から「その人らしい生活を送ること」が重要である、という一つの答えに辿り着いた。

## 達成後の課題・目標

・在籍している職員だけではなく、これから新たに入職する職員も含め、全ての職員に伝えていくことが重要。

・「私らしくノート」も現在のものが完成版ではなく、日々更新していくことが必要。

・職員にとっては仕事の時間であるが、ご利用者やご家族にとって施設で過ごす時間は日々の生活の時間であることを忘れず、「その人らしい生活」を送っていただけるように、。そして、人生最期の日を、ご利用者やご家族に“名楽で最期を迎えることができよかった”と思っただけけるように、今後も職員みんなで協力し、よりよい介護を提供できるよう頑張っていきたい。

※ 個人情報の取り扱いにご注意ください。